

大阪木材仲買会館

Osaka Timber Association Building

No. 13-029-2013作成

新築
事務所

発注者	大阪木材仲買協同組合	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	株式会社 竹中工務店 TAKENAKA CORPORATION		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	株式会社 竹中工務店		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

都市の中の森

木材のポテンシャル

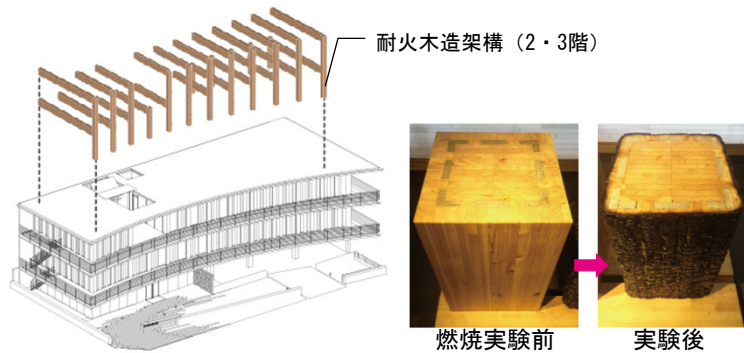
大阪市の中心部に近い事務所や住宅が密集するエリアに大阪木材仲買会館は建つ。コンクリート造の建物群のなかに既存の2本の桜を抱くように建つこの建物は、木材業界の殿堂に相応しく、豊かな木の表情を全面に活かしたオフィスビルである。カーボンニュートラルな木材の循環を建物内に表現するため「立木」「原木」「製材」「廃材」といった木の循環におけるそれぞれの状態を建物の仕上げに使用している点も大きな特徴である。

都市部での木造

本建物の計画地は防火地域にあり、耐火建築物にする必要があり、従来の技術では、木造で実現することは困難であったが、主架構（柱・梁）に木の表情を表して表現できる耐火木造架構「燃エンウッド®」を採用することで都市中心部での木造建築を可能とした。この「燃エンウッド®」により、木というサステナブルな素材を都市中心部でもふんだんに使用できるようになった。

建物計画

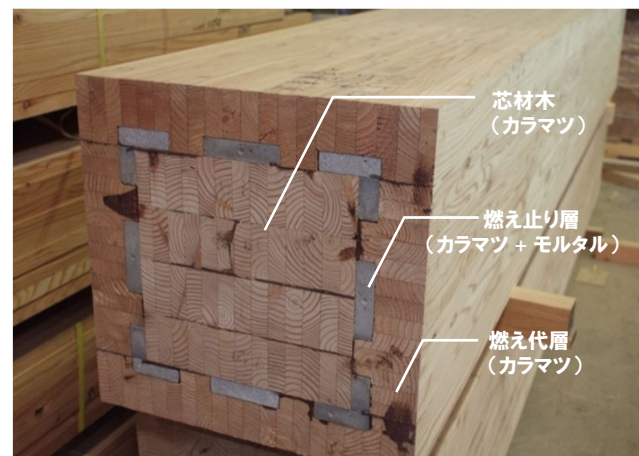
「燃エンウッド®」をL型の架構とし、それと合わせて南側の道路に面した全面に木製建具を用いている。これらの木製部分を敷地内の既存桜を取り囲むように敷地一杯に開くことで、街並みと執務空間に最大限木質材料が現れる構成としている。また軒庇を全体に設けることで、外部に露出した木材を雨や日差しから守ると共に、明快な避難経路として利用することで安全面に配慮した計画となっている。このように工夫を凝らすことで、都市部のオフィスでも木材の利用量増加を可能としている。



外観



大会議室 内観



耐火集成材：燃エンウッド®

設備計画

建物の設備計画を考える際、「木材の美観・性能を活かす設備計画」を念頭に計画を考えた。

-美観を活かす-

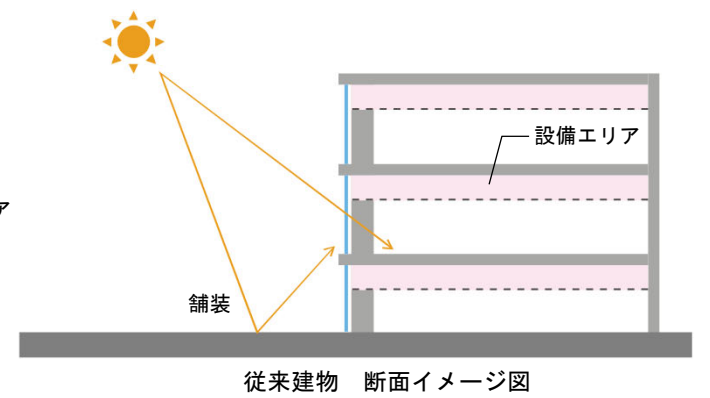
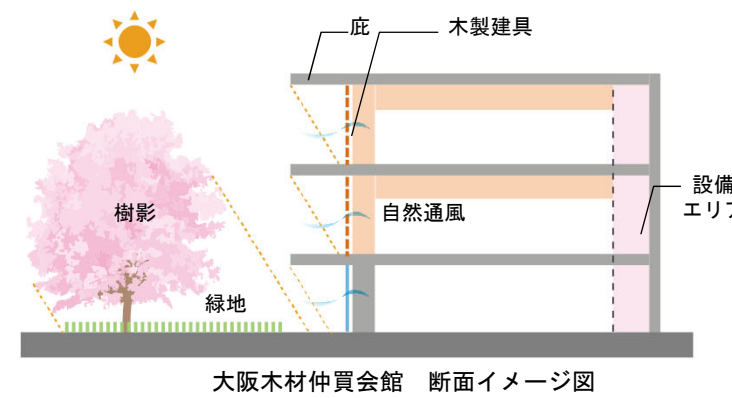
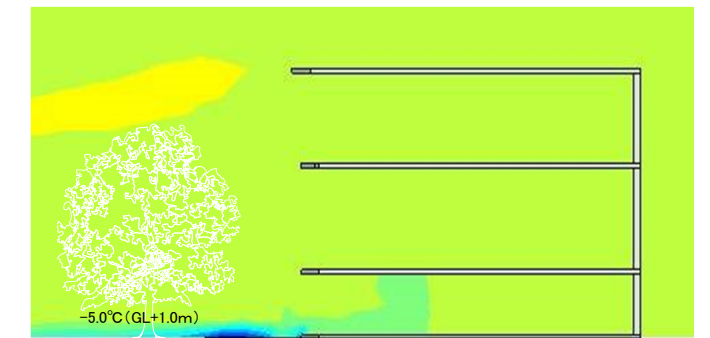
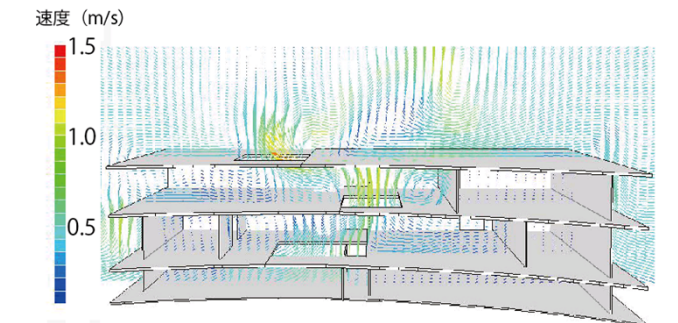
当建物は「木の殿堂」を目指した建物であり、木の梁と柱による木造架構（直天）が特徴である。設備としてもこのコンセプトを念頭に置き、設備計画を行った。南側に大きく開放的なプランの為、北側をコアとし、大型機器（空調・換気機器）は全て北側のコア部分に配置した。また、直天という空間で天井高さを考慮し、壁吹出→床吸込方式を採用した。また、照明器具・感知器等の小型の機器については、納まりを入念に検討し、最低限の露出で室の機能を十分に満足できる計画とした。照明器具はLED照明を採用し、美観と共に省エネルギー・省メンテナンスに配慮している。また、室毎に照明器具を変化させ、使われ方に応じた照明計画を行っている。

-性能を活かす-

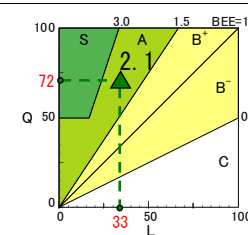
日本古来から活用されてきた「庇」「木製建具」「樹影」等を再度評価し、今回の計画に盛り込んだ。「庇」は「夏季の熱負荷」と「冬季の昼光率」の2つの要素から出の寸法を決定した。また、南側の木製建具は全面を開放することができ、中間期等に解放すれば、快適な自然通風を豊かに得ることができる。更に木製建具は一般的なアルミ製建具に比べて、断熱性能が高く、ピーク熱負荷の低減に大きく寄与している。敷地の南側にある桜は夏季は葉を茂らせ、日射の浸入を防ぎ、冬には葉を落とし日射の恩恵を受けることができる。また、桜の樹影による地表面冷却効果によるヒートアイランド防止効果もある。このように、日本古来より住宅に活用されてきた技術を再評価し、今回の建物計画に落とし込むことで、サステナブルな計画としている。また、建物南側のバルコニー及び庇はメンテナンスを容易に行えると共に、木製建具を雨等から守る役割も果たしている。建物性能だけではなく、南側のバルコニーは縁側的な機能も持っており、リフレッシュスペースとしての空間を作り出している。



南側バルコニー



建物データ	所在地 大阪府大阪市	省エネルギー性能	CASBEE評価
竣工年	2013年	PAL削減 15%	Aランク
敷地面積	1,226㎡	ERR (CASBEE準拠) 32%	BEE=2.1
延床面積	1,032㎡	LCCO ₂ 削減 24%	CACBEE大阪みらい
構造	木造、RC造		
階数	地上3階		



主要な採用技術 (CASBEE準拠)
Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (建物の景観への配慮)